Japan Society of Obstetrics and Gynecology

西，西尾氏等の研究あり．最近高桑氏は女兒性器出血と糞便との關係を檢索しつゝあり．余は糞便内の出血の頻度を知ると同時に出血量並に出血部位に就て檢索を續行しつゝあり．新生兒糞便の潛血反應，就中胎糞のそれの陽性度は極めて高く，既に該反應についての幾多の報告があるが，その本態は解明されず，本邦に於ても單に陽性度の統計觀察を見るに過ぎない．余はその本態を知るべく，新生兒糞便の潛血反應を個人的に追求し，その陽性度の消失點を檢討し，又，羊水，新生兒臍汁，母乳，牛乳に對して該反應を實施檢討，更に早，新生兒胃，小腸，大腸，直腸に對し病理組織學的觀察を行い，之等に對しての考察を行うと共に，經口的に血液を投與し，諸潛血反應檢査法の感度の比較，及び定量的實驗を行い，更に新生兒糞便に對する潛血反應の實施法について檢討を行い甚だ興味ある結果を得たので報告する．

1) 新生兒糞便中，胎糞にては，エーテル抽出法，其他の方法にて殆んどが陽性を示し，煮沸に依るもその反應は消失せず，3日以後各個人に依り時間的差異があるが陰性化を示し，時に陰性化後陽性を示すものがある．

2) 分娩時肉眼的及び蒸留水にぬらしたガーゼにて胎胞をぬぐいベンチヂン反應陰性なるものから採取せる前羊水に對し，生及び煮沸後之を檢査するに，大部分のものは20倍稀釋以下で陽性を示し，時に原液にて疑陽性，及び40倍にて陽性を示すものがあつた．

3) 新生兒臍汁について，臍囊を水洗後之を採取，出來る丈血液の混入を防ぎ檢するに40×4^3以上の低濃度で著明に陽性を示し，胎生期の赤血球崩壞を司る肝の機能を考慮し，又羊水の檢査と共に新生兒胎糞の潛血反應に對する態度を考慮するに，その意義大なりと思われた．

4) 母乳，及び牛乳中の該酵素の存在はあるが何れも煮沸に依りその作用を消失する．

5) 胃，腸を病理組織學的に觀察するに胃には屢〻表在性の糜爛の存在するあり，生後8時間を經過するものは著明なる潰瘍狀の糜爛を證明する．小腸及大腸にも屢〻顯微鏡的に小糜爛面を認めることあり．

6) 新生兒，乳兒の乳汁攝取後の排便開始時間は體重3kgを略〻挾んで體重に逆比例，及び比例して遲延する．

7) 經口的血液投與では，Adler 氏法，Thevenon 氏法，Boas 氏法では生後10日より約1カ月間は，0.05cc 陰性，0.1cc で陽性，生後3カ月乃至生後5カ月では0.2cc 陰性，0.3cc で陽性を示し，Schönbein-Almen-Weber 氏法では，3，4，5ccで時に陽性，6cc以上で初めて前群は陽性を示した．

7) 新兒生糞便に對する潛血の檢出は，糞塊に溜水を加え，細挫，煮沸後，即ち血色素以外の該反應作用物質を除去する事が必要で，Wagner 氏法は此の點全く不適，又量的關係で生後10日位迄はエーテル抽出法も不能，粘液性の糞便の際は量の採取に注意する必要がある．

57. 新産兒第1呼吸の要因に就いて

(山口醫大)

佐々木雄郎，利重五郎，櫻井　博

新産兒出生後の第1呼吸の原因に就いては多くの說があるが，Schwartz によれば母兒間に於けるガス交換の障碍より，引いて起る兒血中の酸素缺乏，炭酸ガスの增加が，この原因であるとし，この說は現在多くの成書に定說として採用されて居る．然るに Ahlfeld は分娩前から呼吸運動の存在することを認め，Haselhorst u. Stromberger は新産兒の娩出直後は酸素缺亡狀態でないことを擧げ，第1呼吸を酸素缺乏で說明出來ないと論じて居る．

そこで，私は分娩時に於いて實際におこる第一呼吸の觀察によつて，その發生要因に就いて何らかの推定が可能であらうと想定し，新産兒第1呼吸の時間關係を觀察した．即ち正常の頭位分娩に於いて發露を過ぎ第三廻旋の途中，鼻に次いで口娩出の瞬間より第1呼吸までの時間と，同じく口娩出より肩胛胸部娩出の瞬間までの時間とを夫々獨立に秒時計を以つて測定した．而して，こゝに得られた2つの變量間に極めて密なる相關々係が證明された．

思うに所謂因果關係と稱せられるものも，哲學的にせんじつめれば單に相關々係であり，從つて逆に，相關々係の證明されると云うことは，その間に因果關係が存すると解してよい．

依つて，この際，分娩時，兒の胸部娩出と云うことと，その新産兒第1呼吸のおこると云うこととの間には極めて密なる因果關係が存在すると云つてよい．換言すれば，新産兒第1呼吸の直接の要因は兒の肩胛胸部娩出であり，即ち，新産兒が第1呼吸を行うのは，その肩胛胸部娩出によつて，それまでの產道による兒胸部の壓迫が解放されるためであると考えてよい．從つて產道による兒胸部の壓迫さえ無ければ兒は常に呼吸運動を營むものであり，分娩前子宮内に於いても兒胸部の壓迫のない以上，羊水中でも呼吸運動を行つて居るであらうことが推論される．

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

而して，分娩中に於ける產道による兒胸部の一時的壓迫を經て，娩出し行う通常の呼吸運動も子宮內に於ける呼吸運動の繼續であり，羊水に代る空氣の氣管內出入開始が卽ち新產兒第1呼吸であると解せらる．依つて私は新產兒第1呼吸の原因に就いての Schwartz 說はとらず，Ahlfeld 說に贊意を表するものである．

58．胎兒及び新生兒死亡に就いて

（都立台東） 鈴村正勝，笠松達弘
峯 三夫，加藤一雄，岡野義三

最近4カ年間に於ける本院の在胎8カ月以上の胎兒及び新生兒死亡例は186例（剖檢65例）あり，全分娩數の53.1‰である．その中，子宮腔內死亡及び分娩開始前死亡8.9‰，分娩中死亡8.9‰，娩出直後死亡8.9‰，分娩後死亡26.5‰．年度別，月別及び季節別による死亡率の變動は認められないが，在胎37週以前及び44週以後の死亡率は何れも20‰以上であり，37～44週の死亡率は1.9～6.7‰で低く，殊に39～40週例が最低である．186例の母體の年齡は26～30歲が35.1%で最も多く，21～25歲，31～35歲が之に次ぐ．初產婦42.1%，1回經產27.0%，2回經產12.4%と減少する．死因としては，胎盤早剝20例，臍帶壓迫，黃疸各々14例，肺炎13例，分娩遷延11例，梅毒10例，奇形8例等が主なものであるが，不明例48例あり，その中13例は剖檢によつても死因を明かにし得なかつた．

(1) 梅毒10例中，在胎38週未滿9例，體重平均2.4kg，浸軟兒6例で多く，分娩後生殘したのは腸 Gumma による腸狹窄1例のみである．(2) 臍帶壓迫例は，成熟兒が多く，10カ月以上12例である．陣痛開始前死亡3例（浸軟2），開口期死亡2例，娩出時9例，骨盤位8例，頭位6例，剖檢により小出血斑等の窒息症狀を認めた．(3) 頭蓋內出血13例中，成熟兒9例，平均在胎39週，兒體重2.5kg，初產婦は全例8時間以上を要したが，經產婦は7時間以內であつた．狹骨盤も認められない．開口期死亡1例（出血性素因），娩出直後2例，當日6例，第1日及び2日各2例，3日以上生殘した例はないから，出血を疑わせる例は3日間の安靜が必要と思われる．小腦，腦幹の出血例は早く死亡し，大腦穹窿部例は1日以上生活するものと思われる．自然分娩7例，鉗子2例，Chinin 療法3例．(4) 奇形兒．死因となる如き重篤な奇形8例．7例男兒，1例女兒（腹壁披裂）．半頭兒3例，腹壁披裂2例，腎及び膀胱奇形2例，腦水腫1例．頭部の奇形が多い．剖檢により，他の奇形を伴うもの4例．(5) 心臟奇形5例．初產，若年の母に多い．在胎平均41週，兒體重2.5kg．生後1，3，4，7日に死亡．(6) 腸閉塞3例．在胎平均36週，體重2.8kg．生後2，4，22日後に死亡．空腸起始部に狹窄を認めた．(7) Melaena 5例．未熟兒が多く，然し分娩時間は平均15時間を要した．生後2，3，5日に死亡．剖檢2例．鬱血著明．(8) 重症黃疸14例，全例未熟兒．生後4，5，6，7，8日後に死亡．黃疸兒は4～8日注意する必要がある．剖檢7例中全例に核黃疸を認めた．(9) 肺炎13例．生後1～36日後死亡．剖檢により Katarrh 性，Herd-，間質性肺炎を認めた．(10) 早剝20例．在胎36週，體重2.3kg．經產婦多し．(11) 前置胎盤．全2例側方2例邊緣1例．經產のみ．(12) 不明例．剖檢上鬱血の著明な例あり．目下研究中である．

59．新產兒頭部壓迫による腦髓の變化

（日赤產院）
野田三郎，須藤利光，北村 益

私達は假死樣症狀を呈して死亡する新產兒に就て檢索を試みつゝあるのであるが，今回は特に分娩時の頭蓋の强度の壓迫が腦の實質に及ぼす影響に就て病理組織學的に研究した．

昭和24年郡氏は，頭蓋內出血の如き假死の原因と思われる肉眼的所見を認めない．第2度假死より眞死に移行した7例の新產兒に就て，腦髓の組織學的研究を試みその成果を發表した．

私は當產院で分娩し死亡した新產兒で，兒頭の壓迫が强度であつたと推測される，假死より眞死に移行したもの22例，死產兒3例に就て，その腦髓の組織學的檢索を行つた．其のうち頭蓋內に出血を認めたもの14例，出血を認めないものは11例である．分娩は頭位で鉗子手術によるもの12例，自然分娩によるもの11例，骨盤位で軀幹牽出術によるもの2例である．初發陣痛開始より娩出までの時間は，62時間24分より2時間14分，生存時間は66時間54分が最長である．

對照としては妊娠10カ月自然分娩後5日目，胃穿孔により1時間後死亡したもの，妊娠10カ月正常分娩後3日目，突然チアノーゼを起して死亡したもの，妊娠10カ月前置胎盤で帝王切開を行つたもの，妊娠10カ月胎盤早期剝離で腟上部切斷を行つたもの，妊娠9カ月自然早產で發育不良のため死亡したもの，5例を用いた．

檢部は前頭葉，前後中心廻轉，後頭葉，側頭葉，視丘，小腦，橋，延髓の8カ所で，チエロイヂン包埋法，

NII-Electronic Library Service